

JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第15回運営委員会議事録
- ◇電子メールニュースレターへの投稿について
- ◇日本惑星科学会入会案内
- ◇学会誌購読申込み

◇日本惑星科学会第15回運営委員会議事録

開催日時：1995年8月1日（火）18:00～21:20

開催場所：宇宙科学研究所5階会議室

出席者：中沢・水谷・武田・阿部・荒川・加藤・川口・佐々木・杉浦・高木・寺沢・福岡・藤井・藤原・向井・村江・矢内・山本（以上出席者），大谷・土山・渡部（以上委任状），香内（以上オブザーバー）

1. 報告

1. 学会員の入会状況

学会員の現況について中沢会長より以下の通り報告があった。7月24日現在、一般会員（除学生会員）は339名、学生会員は124名であり、会員数は4～5名/月の割合で増加中である。また、賛助会員は11社となっている。

2. 財務報告

本会の財政状況及び今後の財政予想について杉浦財務専門委員長より以下の通り報告があった。支出については、予算にくらべ、前回の学会講演会予稿集印刷費が約10万円増、学会誌のページ増による印刷・郵送費が約30万円増、一方、事務局経費が約30万円減、合同大会運営費分担金が約20

万円減で、計約10万円減となる見通しである。また、収入については、一般会費はほぼ見込通り、賛助会費は約15万円減となりそうで、全体として約15万円の減収となる見込である。

この報告を受け、収入を増やす方策を議論し、全国の博物館などに学会誌購読を呼びかけること、学会誌バックナンバーの販売を促進すること、長期会費滞納者に納付を呼びかけることとし、事務局、財務専門委員会、総務専門委員会が早急に対応することとなった。

3. 編集専門委員会報告

村江編集専門委員長より学会誌の編集状況について以下の通り報告があった。現在、vol.4-no.3（9/25発行）の編集作業は順調に進んでおり、予定通り発行の見通しである。次号のvol.4-no.4（12/25発行）では林先生の京都賞受賞に関連した特集を組むことを考えている。また、vol.5-no.1（96/3/25発行）では将来計画委員会で現在審議中の将来計画案を中心とした特集を計画中である。一般的なこととしては、新たに【M論D論情報】や【読者の声】の欄を設けることを検討している。

4. 地球惑星関連学会連絡会

前回運営委員会での報告の通り、合同大会運営のための【事務局】設置の方向で議論が進んでいること、しかし設置場所については未だ決っていないこと、欧文誌の合本化については進展がないこと、が山本連絡会委員より報告された。

II. 議事

委員会成立を確認の後、審議に入った。

1. 借入金の返済について

中沢会長より、『財政基盤の脆弱な学会設立時に当時の運営委員等から計 120 万円借入していたが、昨年度には 60 万円以上の黒字があり、3 月の第 4 回総会において本年度借入金の一部を返済することにした』との経緯説明があり、借入金返済の具体的な執行方法を議論して欲しい旨要請があった。討議の結果、120 万円の借入金のうち 90 万円を本会計年度内（本年 12 月末まで）に返済すること、詳細は財務専門委員会で検討願うこととした。

2. シンポジウム等の協賛、後援について

前回の運営委員会開催以降現在までに以下の 3 件の協賛等の依頼があり、会則等に照し特に問題のないことから受諾したい旨、中沢会長より提案があり、了承された。なお、『京都賞ワークショップ』は林忠四郎先生の京都賞受賞を記念して開催されるワークショップであること、また、『「学校地学」関連学会間連絡協議会』は、中央教育審議会の「学校週 5 日制」にかかわり日本地学教育学会に設けられた「理科活性化検討委員会」との連絡機関である旨、中沢会長より補則説明があった。

(1) 京都賞ワークショップ【星と太陽系の形成】

主催団体 : 稲盛財団

開催年月日 : 1995 年 11 月 12 日

開催場所 : 国立京都国際会館

協力形態 : 後援

(2) 第 10 回大学と科学公開シンポジウム【銀河系と生命】

主催団体 : 公開シンポジウム【銀河系と生命】組織委員会

開催年月日 : 1995 年 11 月 30 日～12 月 1 日

開催場所 : 名古屋国際会議場

協力形態 : 後援

(3) 「学校地学」関連学会間連絡協議会

主催団体 : 日本地学教育学会

協力形態 : 協賛 (委員派遣)

3. 大型月探査計画について

H II ロケットを用いた月探査計画（大型月探査計画と呼ぶ）に関わり、ここ半年の間にいろいろなグループで検討が進められてきたが、これまでまとまった形で報告する機会もなかったのもので、この機会に経緯等について関係者から報告願うこととした旨、中沢会長より説明があり、次いで、水谷副会長より以下の通り経緯説明があった。

約 1 年ほど前より、宇宙開発公団 (NASDA) では将来の月利用（月資源利用、月面利用）を目指し、2000 年初頭から月探査を開始したい意向を固め、昨年暮にまとめられた「宇宙開発長期ビジョン」にもそのことが盛り込まれている。具体的には、2000 年初頭から 2015 年頃にかけて 2～3 回の H II ロケットによる月探査を実行しようというもので、初号機はリモートセンシングを中心とした月周回探査と予想されている。これを受けて、宇宙科学研究所の「将来計画委員会」でも本年 2 月から何度か月探査に関する集中的な討議が行なわれてきた。同時に「リモセン」関係の研究者を核とした「大型月探査ワーキンググループ」が作られ、月周回探査の具体的な検討が進められている。

これに続いて中沢会長より『現在、宇宙科学研究所の月惑星探査として、Lunar A 及び Planet B が準備されており、また、Muses-C（近地球小惑

星探査)も実現に向って走りだそうとしている。このような中、果たして新たなミッションを組むだけの人的余裕があるか、ということが最大の問題である。しかし、月惑星探査の推進は日本惑星科学会の重要な任務であり、現状を固定して考えるのではなく、開かれた発想のもとに積極的に対応する必要がある。将来計画専門委員会に急ぎ検討願っているのはそのためでもある。」との補則説明があった。

これらの説明を受けた後、自由討議を行い、各委員から「月探査の科学的意義」、「月惑星探査の長期戦略」、「実行の可能性」、「大学院教育・人材確保」、「他分野との協力」、「研究推進体制」など種々の観点からの発言があった。将来計画委員会での審議にこれらの意見を反映して頂くことにした。

4. 将来計画案の策定について

山本将来計画専門委員長より以下の通り経過説明、審議状況について報告があった。

6月16日第1回将来計画専門委員会を開催したが、その冒頭中沢会長より、「まず(0)惑星科学関連研究教育機関の規模、設備、改組状況等について調査を行ない、それに立脚して、(1)「月惑星探査計画の立案・推進方法」、(2)「南極隕石研究の推進」、(3)「研究教育ネットワーク構築」、の3項目について提言をまとめて欲しい。その際、「研究教育ネットワーク構築」については「月惑星探査計画の立案・推進方法」と関連して人材の育成の観点を重視して欲しい。スケジュールとしては、10月までに中間報告をまとめ、内外の批判等を仰いだ上で審議を続け、1996年4月までに最終報告書を印刷・製本したい。なお、最終報告書は学会誌に掲載するとともに関係機関に送付し、提言実現に向けた働きかけを行ないたい」との諮問があった。

この諮問を受け、すでに2回の将来専門委員会を開催し、検討に入っている。「南極隕石」についてはすでに隕石研究者グループで検討が進んでおり、そちらと緊密な関係を保ちつつ議論を煮詰めていきたい。また、「ネットワーク」については、大型設備等の分散配置、大学院教育の機関間協力、人材育成などを中心に議論しているが、これまで余り考えていなかったテーマであり、概念作りに苦慮している。

これらの報告に関連して、「南極隕石」は他学会でも検討されており、特に日本鉱物学会、日本地球化学会などと協調して検討を進める必要がある、「隕石にこだわらず、物質科学研究全体を視野に入れるべきではないか」などの意見が出された。また、「ネットワーク」については日本天文学会ですでに検討されているのでそれを参考にすべきである」との提案や「プラネタリウムのネットワーク化も視野に入れてはどうか」との意見が出された。

5.95 秋期学会講演会開催について

北大の山本組織委員長より秋期学会講演会の開催要領について以下の通り報告があった。開催日程は予定通り11月13日、14日の2日間とする。特別講演は13日午後に予定しており、講演者として松野太郎北大教授(地球環境研究科)をお願いしてある(講演題目は「気候変動と地球温暖化研究の現状」の予定)。懇親会は13日夕方に北大百年記念館で行なう。講演申込は8月25日を締切としてすでに学会誌に申込案内を掲載した。

この報告に関連して、講演会の開催が例年より約1ヵ月遅いので講演申込期限を1ヵ月遅らせてはどうか、との意見が出されたが、航空券団体割引依頼している旅行代理店との交渉の関係から、今回は予定通りの締切日とすることとした。また、宇宙科学研究所の月惑星シンポジウムの2ヵ月後

に秋期学会講演会があることから、秋期学会講演会では講演テーマを絞った特別シンポジウムの形を取るなど、講演会の性格付けをはっきりさせるべきとの意見が出され、今後企画部会で検討願うこととした。

なお、北大での学会講演会開催時に、月惑星探査計画や将来計画に関する諸報告、討論を中心とした総会を持つこととした。

6. '96 秋期学会講演会開催について

'96年度の学会講演会開催準備について、開催場所としては九大留学生センター、時期としては10月3日(木)、4日(金)を予定して、会場を仮予約している旨、九大村江委員より報告があった。④の議論と関連して開催期間を3日間にするのも考えられるので、当面開催日程を3日(木)~5日(土)として場所の確保をお願いすることとした。

7. 学術会議惑星科学研連の設置要望について

武田副会長(学術会議担当)より、『前回の運営委員会の直後、学術会議関係研連に対して惑星科学研連の設置要望書を送付したが、返事があったのは地質学研連だけで、他の研連からは今もって何の連絡もない。各研連で「惑星科学研連設置」が提案されても積極的に支持する委員がいないと具体的には動かないようだ。本会としてどのよう

に動くべきか、具体的な方向性を議論して欲しい。』との報告及び要望が出された。また、他の運営委員から関連研連の反応として、『天文(日食)研連は好意的で幾つかの定数を拠出してもよいと考えている』、『地震研連、火山研連では対応する国際学会の存在がキーとの認識があり、結果的には消極的』、『地球電磁気研連は総じて好意的』との報告があった。

これらの報告をもとに討議した結果、惑星科学研連の規模としては6~8名程度が現実的で、これを目標に、本会会員が委員として入っている研連、特に、複数の本会会員が委員として入っている日食研連、宇宙化学地球化学研連を中心に、多面的な働きかけを強めること、国際機関との対応づけを誘導するよう努力することとし、また、近日中に中沢会長が杉本学術会議会員とコンタクトし、対応策を協議することとなった。

まお、この問題と平行して、平成9年に予定されている科研費細目見直しの際に、細目「惑星科学」の設置に向けた努力も重要である、との意見が出された。

8. 将来計画専門委員の追加について

山本委員長より、将来計画専門委員会現委員の専門分野から考え、林(祥)会員を委員に追加したい旨提案があり、了承された。

◇電子メールニュースレターへの投稿について

電子メールニュースレターの発行は毎月15日前後に編集発行します。ニュースレターに記事を投稿したい方は毎月10日までに電子メールにより原稿を送付して下さい。宛先は、

JSPSNEWS@geo.titech.ac.jp

です。事務局でレイアウトを多少変更するするなど簡易編集はしますが、基本的には投稿原稿をその

ままの形で掲載されることになります。

なお、電子メールとしての有効性を守るため、記事はできるだけ簡潔なものにしていただくようお願いいたします。また、内容によって事務局の判断で掲載不可とさせていただく場合があります。あらかじめご承知おき下さい。また、これまでと同様電子メールニュースレターで流された記事は事

事務局の判断で学会誌「遊・星・人」に転載することがあります。

(東工大・榎森 啓元)

◇日本惑星科学会入会案内

「日本惑星科学会」は平成4年4月に発足しました。新学会の設立目的は、まず惑星科学それ自体の振興にあります。旧来分野の垣根を取り払い、相互理解や情報交換を積極的に進め、また、異なった手法、異なった対象の研究を集約し総合的な視点にたつて惑星科学を推進することが第一の目的です。また、本格的な惑星探査の時代を迎え、日本の惑星科学界全体として直接、間接に探査計画を支え、さらには将来の探査計画を立案すべく、新学会がその組織化をはかることも重要です。同時に、惑星科学研究の国際的な共同計画に日本の応分の負担と協力が求められている現在、新学会が力量を高め、国際的な窓口としての役割も果たすことになると思われます。更には、惑星科学の成果を社会に還元したり、また、中・高校生など若い人材を惑星科学に勧誘するための広報活動も新学会の重要な責務です。このような日本惑星科学会設立の主旨にご賛同くださり、今後の惑星科学の発展をともに担う広範な分野の方々の入会をお待ちしています。

入会の方法は下記の通りです。

◇学会誌購読申込み

本誌「遊・星・人」は会員外の方でも1号あたり1,750円(含送料)で購読することができます。購読希望の方は、本誌巻末の「学会誌購入申込カード」に所定の事項をご記入の上、事務局にお申し込み下さい。なお、バックナンバーについては創刊号から購読できますが、発行予定のものについ

年会費：6,000円(但し、学生会員は4,000円)

入会手続：

- (a)入会申込書(本誌巻末に綴込まれています)にご記入の上、事務局にご送付下さい。
- (b)運営委員会において入会が認められますと、事務局より入会受理のお手紙を差し上げます。
- (c)その後、(財)日本学会事務センターより年会費請求書が送付されます。請求書に従って年会費をお振り込み願います。なお、入会受理より年会費請求まで遅延があります(最大2ヶ月程度)が、会員としての権利は入会受理と共に発生します。

事務局：

- 〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1
東京工業大学 理学部 地学内
TEL：03-3720-9885
FAX：03-3727-4662
- 〒113 東京都文京区本駒込5-16-9
(財)日本学会事務センター
TEL：03-5814-5801
FAX：03-5814-5820

ては同年内発行のものまで(第1号より第4号まで)となっておりますのでご注意下さい。

学会事務局が購読申込書を受け取り次第、請求書(他必要書類)、バックナンバー及び最新刊会誌を送付します。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

◇日本惑星科学会第3期役員名簿

会 長

中澤 清 (東工大・理)

副会長

武田 弘 (学術会議担当)

水谷 仁 (宇宙研)

監 事

中野 武宣 (天文台)

松田 准一 (阪大・理)

運営委員・幹事・財務専門委員長

杉浦 直治 (東大・理)

運営委員・幹事・総務専門委員長

藤原 顕 (宇宙研)

運営委員・編集専門委員長

村江 達士 (九大・理)

運営委員・将来計画専門委員長

山本 哲生 (北大・理)

運営委員・対外協力専門委員長

松井 孝典 (東大・理)

運営委員

荒川 政彦 (北大・低温研)

大谷 栄治 (東北大・理)

川口淳一郎 (宇宙研)

加藤 学 (名大・理)

高木 靖彦 (東邦学園短大)

土山 明 (阪大・理)

寺沢 敏夫 (東大・理)

林 正彦 (天文台)

福岡 孝昭 (学習院大・理)

藤井 直之 (名古屋大・理)

向井 正 (神戸大・理)

矢内 桂三 (岩手大・工)

渡部 潤一 (天文台)

運営委員・企画部会長

佐々木 晶 (東大・理)

運営委員・学会連合等部会長

阿部 豊 (東大・理)

◇日本惑星科学会賛助会員名簿

1995年8月25日までに、賛助会員として本学会に御協力下さった団体は下記の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します(五十音順)。

(株)大林組

カメカインスツルメンツ(株)

(有)サンデイズ

竹中工務店

日本電気(株)宇宙開発室

(株)パスコ

(株)日立製作所

(株)本田技術研究所

三菱重工業(株)

三菱プレジジョン(株)

(財)リモートセンシング技術センター